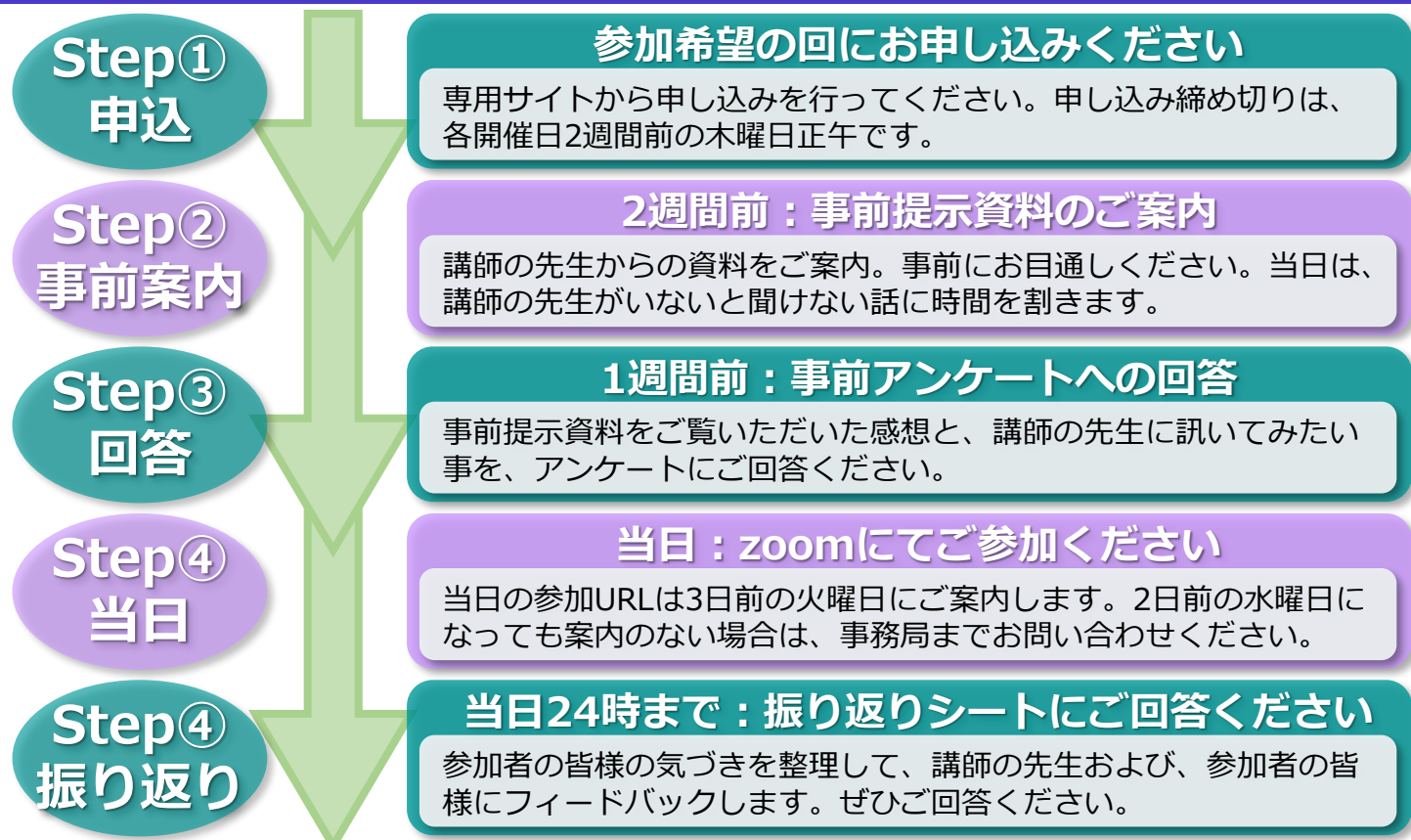


当日の流れ

1	講師の先生から話題提供 - 講師の先生から、近況など簡単に話題提供いただきます。	30～45分
2	講師の先生も聞かれないと意識しない結果に繋がる秘訣を伺います - コーディネーターの山本繁、桑木康宏が加わり、次の観点から話題を掘り下げます。 ① どんな思いで、どんな考えに基づき、行動をしているか。 ② 何がカギとなり、壁を乗り越え、取り組みを進めていったか。 ③ ミドルマネージャーの学内での動き。ミドルマネージャーに担ってもらいたい役割、期待。 ④ 事前に頂いていた参加者アンケートの質問内容。/ 参加者からのチャットによる質問。	45～60分

毎回のプログラムへの参加の流れ



振り返りシートを、事務局で編集し、参加者の皆様全員で共有することで、「教学マネジメントに関する各種取り組みを有効に機能させるために必要なこと」を組織の風土づくりの切り口から深めて参ります。

お申し込みいただいた方の方にメールでご案内します。

参加申し込み

お申込み	https://www.fudo-labo.org/2021
問合せ メールアドレス	info@fudo-labo.org
参加費	各回2,000円 ※ 全5回まとめてお申し込みの場合は8,000円



大学の組織風土としくみ研究会 <https://www.fudo-labo.org>

【事務局】株式会社学びと成長しくみデザイン研究所 <<https://manabi-labo.co.jp>>

令和3年

教育力向上を募集改善・就職改善に繋げるヒント

- 本年度は全5回にわたってマネジメント層の方のお話を伺う -

大学の組織風土としくみ研究会

～ 教学マネジメントのしくみに加えて必要なこと ～

教学マネジメントに取り組んでも、結果の出る大学と、出ない大学に分かれる。何が違うのか。結果を出している方々との対話を通じてその秘訣を探る。

- 開催日程 3/12 5/21 7/9 9/10 11/12 各回13:00から14:30まで
- 場 所 オンライン開催 (Zoom) 全て金曜日
- 対 象 者 大学教職員 定員 100名
- 【主 催】大学の組織風土としくみ研究会
- トークライブ形式
事前に質問をお寄せください

認証評価第三サイクルから学修成果の適正な把握とその結果に基づく改善活動が求められるようになり、また、昨年1月22日には、中央教育審議会より「教学マネジメント指針」が公表されました。これらの流れがあつてか、アセスメントプラン（ポリシー）、学修成果の可視化、評価・改善サイクルの確立など、教育の質保証の各種取り組みを体系的に機能させるための仕組み作りに、力を入れ始めたというお話を伺うことが増えてきました。

しかし、教学マネジメントに取り組むことで、募集改善・就職改善に繋がる高等教育機関がある一方で、結果のついてこない大学も少なからず存在します。

教学マネジメントを機能させ、社会・企業から評価されるような、しっかりとした教育を提供し、高校生に選ばれ続ける高等教育機関になるためには、どうすれば良いのか。結果に繋がらない大学には何が足りないのか。本研究会では、主に地方私立大学で実際に結果を出されている方と対話しながら、組織の風土づくりに焦点を当て、新たな視点を頂くことを目指します。

初年度は、結果を出している大学のマネジメント層の方に「普段どのような動きをされているのか」「何がカギとなって成果に繋がっているのか」「学長のリーダーシップを確立していく上で必要となるミドルマネージャーの役割とは何か」など、直接お話を伺います。

講 師	こんな方はご参加ください
第1回 3月12日 大森昭生先生 共愛学園前橋国際大学 学長	① 所属組織の将来を考え、すぐにでも動きたいが、やるべきことがありすぎて何から取り組めばよいか分からない方。
第2回 5月21日 神田直弥先生 東北公益文科大学 学長	② 教学マネジメントに取り組み始めたが、教育改善・募集改善・就職改善など、どう結果に繋がればよいか分からない方。
第3回 7月9日 合田隆史先生 尚絅学院大学 学長	③ 学長など、責任者の立場からは何が見え、どう考え、どう動いているのか。その中で自分の果たせる役割は何か、考えたい方。
第4回 9月10日 木枝暢夫先生 湘南工科大学 副学長・工学部長	
第5回 11月12日 両角亜希子先生 東京大学 大学院教育学研究科	

本研究会は、「対話の中からキーポイントを探す」参加型研究会です。参加者の皆様には、事前アンケートで質問をお寄せいただくと共に、終了後に振り返りシートの記載をお願いします。より良い学びの場となるよう、積極的なご参加をお願い申し上げます。

本セミナーは Zoomを使用したオンライン開催です。良好なインターネット環境よりご参加ください。

全5回の研修会を通じて「教学マネジメントのしくみに加えて必要なこと」を伺う

第1回 3月12日金曜日 13:00-14:30



1996年に学校法人共愛学園に入職、共愛学園前橋国際大学国際社会学部長、副学長等を経て、2016年より現職。
中教審教学マネジメント特別委員会、質保証システム部会委員を歴任の他、文科省、内閣官房等の公的委員を多数務め、各地での講演多数。全国の学長が注目する学長ランキング3位（大学ランキング2019）。

共愛学園前橋国際大学 学長 大森昭生先生

グローバル人材育成支援（GGJ）、大学教育再生加速プログラム（AP）、地（知）の拠点大学による地方創生（COC+）、地（知）の拠点整備事業（COC）の4事業全てに採択された全国2大学のうちの一つ。

定員割れし、経営が苦しかったところから、ブランドを再構築し、2019年度の志願倍率が4.1倍（AO・推薦除く）。全国の学長が教育で注目する大学ランキング4年連続5位（大学ランキング）。

なぜ、そのようなことができたのか。

最初からモチベーションの高い、活発な教職員が集まっているからか。何か特別な仕組みを持っているのか。どうやら、そういうことでもないらしい。

結果を出し続けることはどうしてできるのか。普通の大学とは何が違うのか。学長から直接、その秘訣を根掘り葉掘りお伺いします。

第2回 5月21日金曜日 13:00-14:30



早稲田大学人間科学部卒、同大学院人間科学研究科博士後期課程単位取得退学、博士（人間科学）。早稲田大学人間科学部助手、東北公益文科大学講師、准教を経て2015年より教授。
2016年から公益学部長、2020年より学長に就任。

東北公益文科大学 学長 神田直弥先生

東北に小さくてもきらりと光る大学がある。

アクティブラーニングの授業比率78.67%。学生に実践を求める人材育成強化科目群の設置。全学生がこの中から4単位履修。

このプログラム量をどのように確保しているのか。

1年次からキャリアを意識させる仕組みを作り、キャリアアセンダーとも連携してカリキュラムを運営。

実際に学生の学習時間が5年で10時間⇒17.4時間へ。志願倍率も5年で1.5倍⇒2.5倍へ。

何をどうすればこんなカリキュラムを作り、機能させることができるのか。

学内の各種施策を体系的に整理したうえで、学科・各部署が連携し、カリキュラムを有機的に機能させるための秘訣をお伺いします。

第3回 7月9日金曜日 13:00-14:30



1978年文部省入省。同高等教育局企画課長、科学技術・学術政策局長、生涯学習政策局長、国立教育政策研究所フェローを経て2014年から現職。
日本生涯教育学会生涯学習実践研究所所長。日本私立大学協会私学高等教育研究所客員研究員。国立大学協会政策研究所運営委員会委員。

尚絅学院大学 学長 合田隆史先生

18歳人口の減少する中、地方私立大学が担うべき役割は何か。担うためには、どう動いていくと良いのか。

文部科学省の高等教育局企画課長、科学技術・学術政策局長、生涯学習政策局長などを歴任されてきた大きな視点から、地方私立大学の果たすべき役割をどのように考えているのか、地方私立大学を取り巻く環境が、どう変わっていくと予想しているのかを、お伺いします。

そして、2019年の全学改組に取り組んだ背景、また、どのようにして実現したのか、さらに、今後予想される乱気流を乗り越え、安定成長を持続するためには何が必要と考えているのか。

大学運営の中で感じている難しさや、より良い大学づくりに向けミドル層の教職員に期待する事などと合わせて、ざっくばらんに伺います。

第4回 9月10日金曜日 13:00-14:30



1981年東京工業大学工学部無機材料工学科卒業。1984年同大学院無機材料工学専攻博士課程を中退し、同大学助手。
1993年湘南工科大学工学部助教授、2003年教授。2004年から2009年まで教務部長、工学部長等を務め、2013年から改めて工学部長となり、2020年から副学長、常務理事を兼務。

湘南工科大学 副学長・工学部長 木枝暢夫先生

定員割れ&中退率30%の状況から奇跡の復活。

8年前に始まった第二期教育改革。16年前の第一期教育改革はうまくいかず、待ったなしの状況に。

第一期と第二期では何が違ったのか。

構造改革と強力な研修で、教員の意識と教え方が変わった。そうしたら学生の動きが変わった。

実際に学生の出席率や単位修得率は伸び、DP達成度も高まっている。

どうすればそのような取り組みを進めることができるのか。学内合意はどのように行ってきたのか。継続的にブレずに進み続けられたポイントは何か。

普段学外では話す機会のない取り組みの内側に加え、教育改革を推進するリーダーとして職員に期待することなど、根掘り葉掘り伺います。

第5回 「学長リーダーシップの条件」著者

11月12日金曜日 13:00-14:30

慶應義塾大学環境情報学部卒、東京大学大学院教育学研究科博士課程修了、博士（教育学）。産業技術総合研究所特別研究員、東京大学大学総合教育研究センター助手、助教、東京大学大学院教育学研究科講師を経て2013年より現職。専門は大学経営論。著書に『学長リーダーシップの条件』など。



東京大学 大学院教育学研究科 両角亜希子先生

私立大学の初任者学長セミナーも企画運営する両角先生に、普段は数字でしか語らないことを、この日は言葉で語っていただきます。

日本の大学教育を充実させ、発展させていくためには何が 필요한のか。

その解を求め、多くの学長、理事長、経営管理職を対象としたインタビューやアンケート調査を重ね、現時点でたどり着いた最新の考えを伺う。

大学は経営管理職だけでは動かない。結果の出る大学とそうでない大学では何が違うのか。大学組織人として、出来ることは何か。何をしていけば組織がチームとして動き始めるのか。

多くの事例研究から見えてきていること。所属組織がチームとして動き始めるために、経営管理職できること、ミドルマネージャーにできること。

短時間でも深い話を伺えるよう 事前提示資料をご案内します

詳しくは
裏面へ

コーディネーター



山本 繁

慶應義塾大学環境情報学部卒。大学経営、教育、中退予防の専門家。2002年～2017年社会起業家。現在は大正大学特命教授、ビジネス・ブレイクスルー大学（文部科学省認可、学長：大前研一）アドバイザー他。中央教育審議会「高大接続特別部会」臨時委員など歴任。2021年4月「朝日中退予防ネットワーク（事務局：朝日新聞社）」副委員長に就任予定。



桑木 康宏

2001年九州工業大学情報工学部卒業。現在、学びと成長しくみデザイン研究所代表。瀬戸内グローバルアカデミー 教学担当理事。日本高等教育開発協会正会員・事務局担当。九州アプリチャレンジキャラバン発起人。「教育×IT×地方活性化」をキーワードに活動。

結果の出る大学と そうでない大学。何が違うのか。参加者の皆様と一緒に、その秘訣を探ります。